

第 40 回(2017 年度)地域安全学会研究発表会(春季)に参加しました(2017/6/9-10)

テーマ：災害科学、リスクコミュニケーション

場所：石垣市商工会館、IT 事業支援センター、石垣市立図書館（沖縄県石垣市）

6月9日(金)及び10日(土)に、石垣市商工会館等において、地域安全学会の春季研究発表会が開催されました。9日には、まず、一般論文発表会において、当研究所教員が執筆者の6件の論文発表があり、うち、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、定池祐季助教（情報管理・社会連携部門）、杉安和也助教（リーディング大学院）、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）が登壇しました。続いて、文部科学省リスクコミュニケーションセッションでは、佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）が登壇しました。各発表者の講演題目等は次の通りです。

【一般論文】

薄田拓磨、村尾修ら：リモートセンシングデータを用いたヤンゴンの建物特性の把握

定池祐季：被災地における「災害遺構」の位置づけー北海道奥尻島の事例からー

杉安和也、松本行真：2016年11月福島沖地震時における福島県いわき市での津波避難行動と以降の取り組み

寅屋敷哲也、丸谷浩明：東日本大震災時の東北および北関東の被災都市における帰宅困難者問題に関する考察

北村美和子、村尾修：写真の表現による東日本大震災の記録の変遷

3.11 キラクのキログ：市民が撮った3.11大震災記憶の記録

井出明、佐藤翔輔：災害復興とポケモンGO

【文部科学省リスクコミュニケーションセッション】

佐藤翔輔、今村文彦：東日本大震災における「津波による犠牲者ゼロ」の地域を対象にした探索的調査

※下線は、当研究所所属教員

翌10日には、公開シンポジウム「低頻度巨大災害への備えとリスクコミュニケーション」ののちに、現地見学会「八重山大津波の歴史をめぐる」を行いました。なお、地域安全学会では2017年8月5日・6日に東日本大震災連続ワークショップ in 釜石の開催を企画しており、災害科学国際研究所は同企画を共同開催する予定です。



定池助教（一般論文発表）



杉安助教（一般論文発表）



寅屋敷助教（一般論文発表）



佐藤助教（文科省リスクコミュニケーションセッション）

文責：寅屋敷哲也（人間・社会対応研究部門）